

平成10年度理学部・理学系研究科技術職員集合研修「コンピュータ関係」実施される。

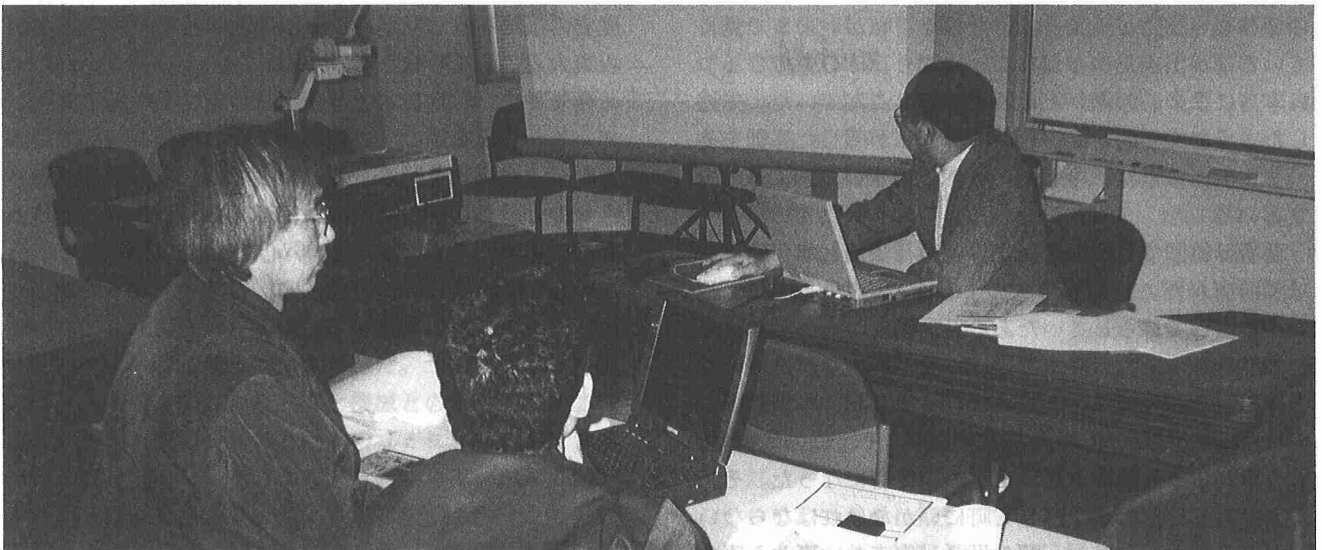
平成10年度理学部・理学系研究科技術職員集合研修「コンピュータ関係」が、11月30日から12月3日まで3日間実施された。

受講者は技術職員15名の他、図書職員から2名の参加があり、総受講者は17名であった。

理学部・理学系研究科では、平成7年から毎年技術職員の集合研修がおこなわれている。「コンピュータ関係」

は毎年行われ、今回で4回目になる。今回はコンピュータに関する講義の他、windowsソフトウェアの使い方に関する講義と演習が行われた。ソフトウェアとしては、計測制御用グラフィカルプログラミング(LabVIEW)とドロー系ソフトウェア(AutoCAD)が用いられた。

研修終了後、研修会場において懇談会が行われた。



理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究員との懇談会開かれる

去る1月25日(月)午後6時から山上会館1階談話ホールにおいて、理学系研究科・理学部の教職員と留学生・外国人研究員との懇談会が開催された。

参加者は留学生、客員研究員、教職員を含め計80名。会は壽榮松研究科長の挨拶に始まり、守国際交流委員長による乾杯の音頭の後、料理や飲み物を手に歓談が始められた。外はあいにくの雨であったが、会場の中は暖かで参加者はリラックスした雰囲気ですべて楽しんだ。

会半ばに大園留学生センター長より挨拶があり、続いて留学生3人のスピーチが行われた。生物科学専攻の研究生シン・ナンダ・バハドゥーラさん(ネパール、男性)は日本についての印象や東京大学に入った喜びを一杯に表現し、化学専攻の修士1年黄紅花さん(中国、女性)は日本での生活で感じたことや中国との違いについて流暢な日本語で話をした。また、同じく化学専攻の博士2

年関榮根さん(韓国、男性)は東大で研究生活を送る傍ら日本での厳しい生活状況についていくつかの新聞取材を受けた経験等を挙げ、経済的には大変であるが、精神的には豊かな留学生生活を送っていること、誰とも話せない日が一番つらくもっと学生と話す機会を持ちたいとの希望を述べた。

最後に理学系研究科国際交流委員会である地球惑星物理学専攻のグラー助教授による閉会の辞があった後、全員記念写真を撮影し、午後8時に盛況のうち閉会した。留学生たちは、自国の経済危機や日本の不況のため民間奨学金を得ることも困難な状況の下、毎日一生懸命研究に打ち込んでいる。普段は実験等で忙しく他の研究室の学生との交流も難しいが、年に一度のこのパーティではいろいろな人に出会い、美味しい食事と共に楽しいひとときを過ごすことができたようで、お世話した側にも有意義な催しであった。



歓談する教職員と留学生たち

理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1998年11月16日及び12月21日に壽榮松研究科長、小林事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下の通りである。

1. 昇級・昇格

11月の交渉で理職は、今年度の特昇者の名簿と、特昇の基準となる人事委員会の内規を明らかにするよう要望した。事務長は承知したと答えた。

事務職員

11月の交渉で理職は、来年度で定年3年前となる事務主任の6級昇格と、行（二）から行（一）に振替わって3年が経過する掛員の掛主任発令について、1999年4月1日付での発令を要望した。理職は、4級高位号俸者が溜まっている現状があり、理学部には専門職員が少ないので個別に獲得して昇格を改善して欲しいと要求した。これに対して事務長は、専門職員は事務組織化や事務一元化との関係で考えているが、違う方向があればそうしたい、事務局と相談して検討したいと述べた。

12月の交渉で理職は、昇格に関する要望事項について、本部の反応を尋ねた。事務長は、6級昇格については定年2年前が最短であると答えた。理職は、5,6級の専門職員を部局に増やして欲しいと要望した。現場に任されている業務が増えて繁雑化しており、迅速な対応や高度な知識が要求されているので、業務を円滑に進めるためにも事務機構の充実を図るよう要望した。事務長は、現場の大変さは理解していると答えた。理職は、増大する事務に対して体制が応じきれないこと、かつては学部で行っていた法律と現場の穴埋めが学科に降りてきており、事務主任がそのギャップを埋めている現状を説明した。多くの課題を処理するには事務を合理的に進めることが必要であり、重ねて専門職員を増やすよう要望した。研究科長は専門職員の数が少ないことは承知していると述べた。理職は強く改善を要求した。

図書職員

11月の交渉で理職は、行（二）から行（一）に振替になり、年齢と号俸の条件は満たしていて、1999年4月で4級在級が丸5年となる図書職員の5級昇格を要望した。事務長は、在級の基準をクリアしていないので、個別に考えなければならないだろうと答えた。

12月の交渉で理職は、図書職員の5,6級昇格についての要望書を提出し、該当者の昇格を要望した。図書職員の昇格については、基準で5級昇格した人がすぐ6級昇格の有資格者となる位、5級昇格が遅い現状を指摘し、専門職員導入による昇格改善を要望した。理職は、全国的に見て東大のように大規模な大学では、図書職員のポ

ストが職員数の割に少なく、現場職員の待遇が悪くなっていることを主張し、待遇改善への努力を要求した。事務長は、検討すると回答した。

技術職員

11月の交渉で理職は、2000年3月定年予定で未だ4級の技術職員がおり、他の技術職員との均衡を著しく欠いていることを指摘し、1999年の4月が最後の機会であるので、5級昇格を実現するよう要求した。事務長は、年齢、号俸は5級昇格基準に足りている、在級年数が不足するが努力すると回答した。理職は、今年度の7,8級上申手続きはどの様になっているかを質した。事務長は、年内に書類が来る、該当者は5名である、通知が来たら専攻長の推薦文と資料を出す、12月再確認するがまだ書類は来ていないと答えた。

12月の交渉で理職は、2000年3月定年予定者の5級昇格について尋ねた。事務長は、良い方向に進んでいると回答した。理職は、5,6,7,8級昇格要望書を提出した。

2. 勤勉手当

11月の交渉で理職は、今年度12月期の勤勉手当について、0.7該当者を具体的に推薦しているか、順番制であるかを尋ねた。事務長は、事務官・技官については順番制であると回答した。

3. 研修旅費

技術職員

11月の交渉で理職は、技官の旅費等に関する要望書を提出した。理職は、技術部の旅費等を賄っている委任経理金利息の不足について、来年度も今まで通りの技術部活動が出来るよう、配慮して貰いたいと要望した。研究科長は、利子財源がなくなった、研修旅費の中身の種分けが必要、技術の水準を上げるのに必要なものは何らかの予算で賄いたい、シンポや他から人を呼ぶ経費等、個人的でない旅費については何か財源を確保したい、しかし学会出席は研究の一環であり、全体が負担するには無理がある、何れも会計委員会で議論するので、技術部には予算表を出して貰いたい、この要望書も委員会へ出す、と答えた。

図書職員

11月の交渉で理職は、研修旅費についての要望書を提出し、今年度の追加配分が決まったか尋ねた。事務長は、追加配分はまだ決定していないが可能性はある、来年度からは会計委員会で、専攻へ配分する時点で予算を回すことを検討してもらうことになるだろうと回答した。理

職は、研修は益々必要になっているが、理学部の旅費の財源を増やすことはできないのか質問した。事務長は、新しい事業の一環として概算要求しなければ無理であると答えた。研究科長は、特定の目的に絞って旅費を出すことは考えられると述べた。理職は、すぐに結果が現われる研修ばかりではない、学部として職員の教育という観点を持ってほしいと要望した。

12月の交渉で理職は、旅費の追加配分について尋ねた。事務長は、全体の追加配分がまだ来ないと答えた。理職は引き続き、旅費の確保を要望した。

4. 事務一元化

11月の交渉で理職は、理学部の合同事務部化の形態について尋ねた。事務長は、現在、遺伝子、素粒子も理学部事務でやっているが、概算要求ではそこに環境安全センターが増えた形となり、環境安全センター本来の業務であるサービス部門は1つ掛をつくり、一般部門は各々の掛でやると答えた。

12月の交渉で理職は、合同事務部は概算要求に伴い実現するのか確認した。研究科長は、平成11年度からそうなると回答した。理職は、事務部長制についてどうなっているかを質問した。事務長は、平成12年度以降再編成を考えなければならない、平成11年度は事務だけが環境安全センターと一緒になると答えた。

11月及び12月の交渉で理職は、図書の組織化について質問した。事務長は、その後の進展はないと回答した。

5. 定員削減

12月の交渉で理職は、平成11年度の定員削減についてどのように考えているかを尋ねた。事務長は、ユニット制のプラスの数字を見て人事委員会で考えており、定年退職以外の定員削減は、異動・辞職の後を埋めないと回答した。研究科長は、異動は本人の了解なしでは行わないと述べた。

6. その他

11月の交渉で理職は、新領域創成科学研究科の図書についてどう考えているかを質問した。研究科長は、柏の図書室については検討されているが、柏に移るまでのことは聞いていないと答えた。12月の交渉で理職は、新研究科の図書について、4月から学生が入って来るがどうなっているか問いただした。研究科長は、まだ新研究科から何も言われていないが、当面今までの専攻の図書室を使わせてもらうしかないのではないか、と答えた。

12月の交渉で理職は、独立行政法人化について、東大として何か検討しているかを尋ねた。研究科長は、検討はしていないと答えた。

東大木曾観測所が「ふるさと切手」に

長野県木曾郡三岳村の東京大学理学系研究科・理学部木曾観測所（吉井讓所長）はこの4月で25周年を迎えます。これを記念して、天文学を通じて地域との交流がさらに発展することを願って、木曾観測所と御嶽山をデザインした郵政省のふるさと切手（80円切手）が信越郵政局管内の長野、新潟両県の郵便局を中心に4月9日発売することになりました。木曾観測所のシンボルのシュミット望遠鏡ドームと木曾の御嶽山の景観が赤く美しいばら星雲を背景に描かれています。地元の三岳郵便局は、発売当日に全国の郵便局で唯一、同切手に「初日印」という記念スタンプを押すサービスを行います。興味のある方は、三岳郵便局（〒397-0199 長野県木曾郡三岳村6457-2、電話0264-46-2042）へお問い合わせ下さい。

（東大内広報No1155 1999. 3.8号に掲載済）



人事異動報告

(講師以上)

| 所属 | 官職 | 氏名 | 発令年月日 | 異動内容 | 備考 |
|----|-----|-------|-----------|------|----------|
| 地惑 | 助教授 | 比屋根 肇 | 11. 1. 16 | 昇任 | 助手より |
| 物理 | 教授 | 福山 秀敏 | 11. 2. 1 | 配置換 | 物性研究所教授へ |

(助手)

| 所属 | 官職 | 氏名 | 発令年月日 | 異動内容 | 備考 |
|----|----|--------|-----------|------|--------------------|
| 物理 | 助手 | 神原 浩 | 11. 1. 16 | 採用 | |
| 地惑 | 〃 | 杉田 精司 | 11. 2. 1 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 深畑 幸俊 | 11. 2. 16 | 〃 | |
| 物理 | 〃 | 羽田野 直道 | 11. 2. 27 | 辞職 | |
| 〃 | 〃 | 白水 徹也 | 11. 3. 1 | 休職更新 | 10. 3. 1～12. 2. 29 |
| 生科 | 〃 | 佐藤 恵春 | 11. 3. 1 | 休職 | 11. 3. 1～12. 2. 29 |

(併任)

| 所属 | 官職 | 氏名 | 発令年月日 | 異動内容 | 備考 |
|----|----|-------|----------|------|----------|
| 物理 | 教授 | 福山 秀敏 | 11. 2. 1 | 併任 | 本務：物性研究所 |

(職員)

| 所属 | 官職 | 氏名 | 発令年月日 | 異動内容 | 備考 |
|-----|-------|--------|-----------|------|----|
| 事務部 | 庶務掛主任 | 鈴木 トヨ子 | 11. 2. 10 | 辞職 | |



博士（理学）学位授与者

平成10年11月16日付学位授与者（1名）

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------|---------|------|---------------------|
| 論文博士 | 地球惑星物理学 | 藤田英輔 | 流体溜り共鳴による火山性微動の発生機構 |

平成10年12月14日付学位授与者（3名）

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------|-----|------|--------------------------------------|
| 課程博士 | 物理学 | 井野恒洋 | C ₆₀ アルカリ金属化合物の高圧下における相転移 |
| 〃 | 〃 | 岡田京子 | 近傍渦巻銀河の空間分解されたX線スペクトルの研究 |
| 〃 | 天文学 | 奥村健市 | IRTSによる星間塵放射の観測的研究 |

平成10年12月31日付学位授与者（3名）

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------|---------|-------|------------------------|
| 課程博士 | 物理学 | 杉之原真紀 | 宇宙マイクロ波背景放射における構造形成の痕跡 |
| 〃 | 〃 | 中嶋孝之 | 弦理論に関する行列模型の数値的研究 |
| 〃 | 地球惑星物理学 | 杉山徹 | 準平行衝撃波の近傍におけるイオンの加速 |

平成11年1月25日付学位授与者（4名）

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------|------|------|--|
| 論文博士 | 情報科学 | 増原英彦 | 並列オブジェクト指向言語における自己反映アーキテクチャの設計と部分計算を用いたコンパイル技法 |
| 〃 | 〃 | 小林聡 | 計算の観点から見たモナドと様相 |
| 〃 | 物理学 | 村上修一 | 1次元ハバード模型および関連した模型の可積分性 |
| 〃 | 生物科学 | 山本直之 | 脊椎動物中枢神経系の複数の GnRH 系：形態、機能、発生学的起源 |

平成11年1月31日付学位授与者（1名）

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------|-----|------|------------------------------|
| 課程博士 | 物理学 | 牟田淳 | ドリップライン付近及びそれを越えた不安定核の1粒子的性質 |